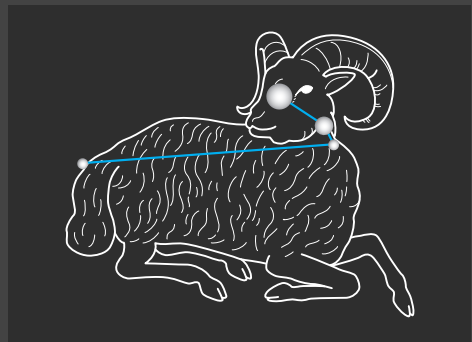




おひつじ座

アンドロメダ座のすぐ南に、細長い二等辺三角形のように見える星座、さんかく座があります。そのさんかく座のすぐ南よりに、やや形をくずした三角形で、「へ」の字を裏返したような形にならんでいる星があります。それが、今回ご紹介する「おひつじ座」の頭の部分になります。「おひつじ座」は、空を飛ぶ金毛の牡羊の姿をあらわしています。暗い星をつなぐため、牡羊の胴体は頭部とプレアデス星団の間に横たわっていると見当をつけるしかありません。この「おひつじ座」は、2000年

以上前のギリシア時代には重要な星座として注目されていました。その理由は、現在ではうお座の「西の魚」近くにある春分点が、この「おひつじ座」にあったからです。そのなごりとして、春分点を「白羊宮の原点」と呼んだり、羊の頭のイメージを表すマークを使ったりしています。

「おひつじ座」は金色の毛をもつ空飛ぶ牡羊として、次のような物語が語り継がれています。テッサリアの王であるアタマスには、プリクソス王子とヘレー王女という二人の子供がいました。その二人の存在を、よく思わない人物がいました。それがアタマス王の2番目の妻であるイーノです。イーノの策略で、二人は命を狙われてしまいました。そんな二人の前に現れたのが、毛が金色に輝く空を飛ぶ牡羊でした。この牡羊は、大神ゼウスが二人を助けるために送ったものでした。プリクソス王子とヘレー王女はその羊の背に乗って、黒海の岸コルキスの国に向けて飛びました。しかし、あまりにも速く高く飛んだため、残念ながらヘレー王女は海に落ちてしまいました。プリクソス王子は無事にコルキスへたどり着き、親切にもてなされました。このときの羊が、その後、大神ゼウスによって星座となったとされています。

参考図書：全天星座百科（藤井旭著 / 河出書房新社）

今月の見どころ星どころ ふたご座流星群

文・浜松市天文台
村松 大河

2025年も残すところあとわずかになりました。今年最後の流星群が夜空を彩ります。それが「ふたご座流星群」です。ふたご座流星群は、年間三大流星群に数えられ、出現期間は12月5日から19日の間になります。極大を迎えるのは14日の17時ごろで、14日の宵から15日の未明にかけて、見ごろになります。この日の月は、下弦を過ぎた細長い月になるため、月明かりの影響はわずかです。

今回の流星群の放射点は、二等星である、ふたご座のカストルのそばにあります。「放射点」とは、流星群に属する複数の流星の経路をたどったとき、交差する1点のことです。流星群の名前は、この放射点がある星座の名前を用います。つまり、今回の流星群はふたご座に放射点があるため、「ふたご座流星群」という名前で呼ばれています。

放射点について話をしましたが、放射点周辺に流星が多く飛ぶわけではありません。流星群を観察するときは、空全体をまんべんなく眺めることが大切です。防寒対策をしながら、全天が見渡せる場所で流星群を楽しみましょう。天文台でもイベントを企画していますので、皆様のお越しをお待ちしています。

参考図書：星空年鑑 2025（アストロアーツ）



星空クイズ

1990年12月2日、初めて日本人が宇宙へ行きました。当時TBSテレビの社員だったその方は、旧ソ連のソユーズTM11号で宇宙へ行き、宇宙船ミールに乗り込んで6日間滞在しました。では、その人の名前は？

- A 毛利衛さん
- B 秋山豊寛さん
- C 向井千秋さん

答えは中面へ

星空案内

浜松市天文台と浜松科学館がお届けする今月の星空情報

2025年12月

上旬 21時ごろ

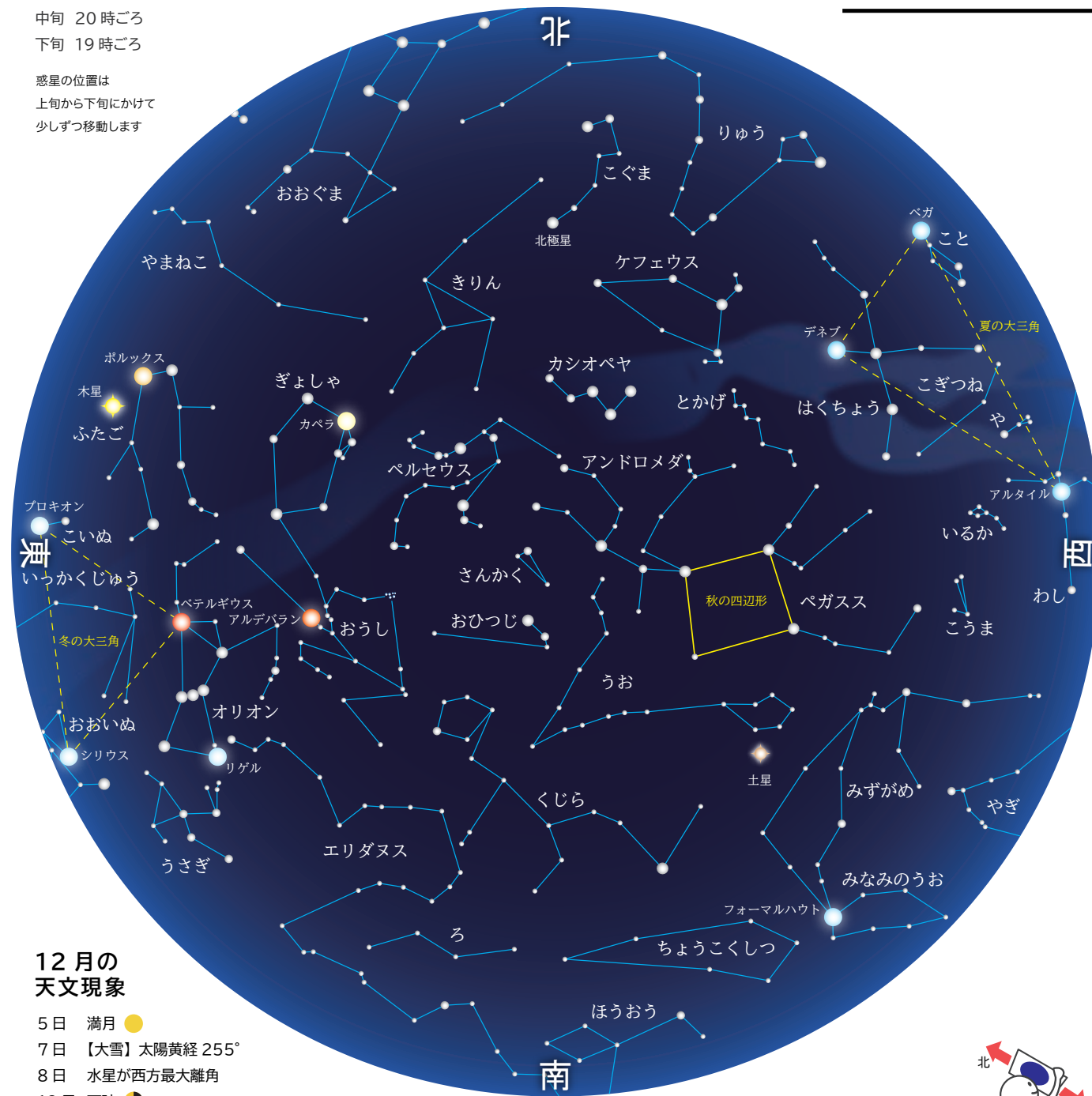
中旬 20時ごろ

下旬 19時ごろ

惑星の位置は

上旬から下旬にかけて

少しずつ移動します



12月の天文現象

- 5日 満月 ●
- 7日 【大雪】 太陽黄経 255°
- 8日 水星が西方最大離角
- 12日 下弦 ●
- 14日 ふたご座流星群が極大
- 20日 新月 ●
- 22日 【冬至】 太陽黄経 270°
- 28日 上弦 ●
- 31日 プレアデス星団の食

2025

12

上の星図は、空にかざして
実際の方角と合わせてご覧ください。

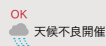




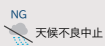
浜松市天文台

イベント情報

天文台ウェブサイトよりお申込みください。



OK 天候不良開催



NG 天候不良中止

ウェブサイトはこちら



12/6・13
20・27

星空観望会

宇宙へのとびら in はままつ

季節の星座、星雲・星団、月、惑星などを観望します。

時間 18:30～20:30

会場 天文台屋上

申し込み 開催日3日前の水曜13時から受付（30分ごと先着20組）



12/6 天文ミニ講座

星座と当夜の見どころについて、星のソムリエ®がやさしくお話いたします。

時間 17:30～18:20

会場 2F 講座室

申し込み 12/3（水）13時から受付（先着6組）



12/7 太陽・昼間の星観望会

黒点、プロミネンスなど太陽が活動する様子や、昼間に見える天体を観望します。

時間 14:00～16:00

会場 天文台屋上

申し込み 予約の必要はありません。直接天文台にお越しください。



12/13・14 天文台まつり 天文工作

五島協働センターまつりと同時開催。天文工作を楽しみましょう。参加無料です。

時間 13日：13:00～16:00 / 14日：9:00～12:00

会場 天文台ホール

材料費 無料

申し込み 予約の必要はありません。直接天文台にお越しください。



12/14 天文台まつり 太陽・昼間の星観望会

黒点、プロミネンスなど太陽が活動する様子や、昼間に見える天体を観望します。

時間 12:00～14:00

会場 天文台屋上

申し込み 予約の必要はありません。直接天文台にお越しください。



12/13 ふたご座流星群観望会

話題の流星群をみんなで楽しもう。温かい服装でお越しください。

時間 21:00～23:00

会場 天文台屋上

申し込み 11/26（水）13時から受付（先着30組）



12/21 星と景色の写真講座

三脚と一眼レフカメラで、星の写った風景写真を撮影するための入門講座です。

時間 18:30～21:00

会場 2F 講座室

申し込み 12/10（水）13時から受付（先着6組）



裏面のクイズの答え：正解は、B（毛利さんは日本人として初めてスペースシャトルに乗って宇宙へ行った宇宙飛行士です。）



浜松科学館

プラネタリウム番組情報

解説員がライブ解説する「プラネタリウム」と臨場感ある「大型映像」をお楽しみいただけます。

blog



プラネタリウム



星降るクリスマス

毎年やってくるクリスマス。

この時期の星空と"クリスマスの星"について解説します。

～12月25日（木）14:30～15:25
（土日祝・冬季は13:00～13:55も投映）



天竜浜名湖鉄道 星空紀行

12月26日（金）～14:30～15:25
（土日祝・冬季は13:00～13:55も投映）



星空マルシェ

～解説員による星空解説・宇宙の話～

平日※冬季除く 15:50～16:30

大型映像



ティラノサウルス

土日祝・冬季 10:30～11:10



ヒーリングアース IN JAPAN

土日祝・冬季 15:50～16:30

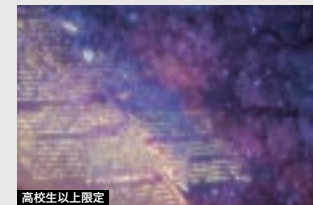
キッズプラネタリウム



きんぎょのぼし

土日祝・冬季 11:30～12:05

夜の科学館 特別投映



星の名前とその意味

12月12日（金）18:00～18:40
19:00～19:40

※冬季：2025年12月20日～2026年1月6日（2025年12月29日～2026年1月3日は休館）

星空イルミネーション

今年も残すところ、あと1ヶ月。街がさまざまな光で彩られるイルミネーションの季節になりましたね。そんなきれいなイルミネーションのように、星の光にもいろいろな色や輝きがあることを知っていますか？

まず一番わかりやすいのは、星の「明るさ」の違いでしょう。星は明るさによって、一等星、二等星という風に明るさのランク分けがされています。最も明るい星を一等星、目に見える星の中で最も暗い星を六等星として大きく6つに分けられます。そして、一等星と六等星と比べると、約100倍もの明るさの違いがあるんですよ。それほど、星の明るさには幅があるんですね。

では、なぜいろいろな明るさの星があるのでしょうか。理由はいくつかありますが、まず一つ目に挙げられるのは地球からの距離の違いです。星の光に限らず、近くの光は明るく、遠くの光は暗く見えますね。同じように地球に近いところで輝く星は明るく見えます。ですが、遠くの星なのに明るく見える星もあります。これは星の温度が高かったり、星の大きさが他の星の何百倍、何千倍も大きかったりする星たちです。そのような星は放つ光のエネルギーが非常に大きく、明るく輝くので遠くにあっても明るく見えるのです。

そして次に、星の「色」の違いです。例えば、冬の大三角を作る星のシリウスとベテルギウスを比べてみると、シリウスは青白い光、ベテルギウスは赤っぽい光で輝いているのが分かります。この星の色の違いは

星の表面温度の違いによるものです。青白い光のシリウスは温度が高い星で、約1万℃で輝いています。それに対してベテルギウスは約3,500℃と、星の世界では低温の部類に入ります。なんとなく、私たちの感覚的に「寒色」と呼ばれる青の方が冷たそうに感じますが、星の世界は逆なんですね。こんな風に星の色に注目すれば、大体の表面温度を知ることができます。（下図）

冬は明るい星が多く、空気も澄んでいるので星を見るにはとてもいい季節です。地上を彩るイルミネーションも素敵ですが、夜空を彩る星の光も負けないくらいきれいですよ。星にはどんな違いがあるのか、ぜひ実際の空でも比べてみてくださいね。それではみなさん、よいお年をお迎えください。



第44回 ゆめいっぱい小学生 宇宙絵画展

作品募集

「宇宙」をテーマにした絵画を大募集。宇宙への夢をお待ちしています。

応募期間

2025年

12月12日(金)～

2026年

1月8日(木) 必着

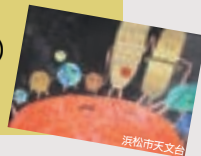
作品条件

四つ切り画用紙の平面作品
未発表のもの / 縦・横どちらも可

応募方法

電子申請後、作品を天文台に提出（持参または郵送）

応募はこちらから！



① 日付
② 月の出の時刻
③ 月の入りの時刻
④ 月齢

